

「左利きの局所麻酔薬—レボブピバカインとロピバカイン—の基礎から臨床まで」によせて

山本 健^{*1} 川真田樹人^{*2}

本特集は、日本臨床麻酔学会第28回大会シンポジウム10「左利きの局所麻酔薬—レボブピバカインとロピバカイン—の基礎から臨床まで」のご発表を論文化していただいたものである。

古江秀昌先生には、神経生理と実験方法の基本的な知識から、立体異性体による局所麻酔作用の違いについての最新の知見までを、噛んで含めるように解説していただいた。In vitroの実験でも、また、より生理的なin vivoパッチクランプ法による実験のいずれでも、レボブピバカインはC線維の活動電位を選択的に抑制するが、Aβ線維の活動電位にはほとんど抑制作用を示さないこと、レボブピバカインの光学異性体であるデクスブピバカインは、物理的な性状がレボブピバカインとまったく同じであるにもかかわらず、このような選択的抑制を示さない

という興味深い成績を提示された。

黒川博己先生は、臨床医のお立場から、わが国で実施されたレボブピバカインによる硬膜外麻酔について有効性と安全性の成績を報告され、併せて海外の論文についてご紹介いただいた。レボブピバカインによる硬膜外麻酔の有効性と安全性は、先行して発売されたロピバカインと同等であることが示されている。

小田裕先生は、局所麻酔薬中毒に関する最近の考え方を紹介されるとともに、覚醒状態・自発呼吸下の動物による脳環流モデルを使い、局所麻酔薬の脳内動態の新知見を報告された。従来局所麻酔薬中毒の機序として教科書的に記載されている「抑制系神経の抑制」という内容をより具体的に知るために、重要な論文である。

^{*1}金沢大学医学系麻酔・蘇生学
^{*2}信州大学医学部麻酔蘇生学講座

著者連絡先 山本 健
〒920-8641 石川県金沢市宝町13-1
金沢大学医学系麻酔・蘇生学